

令和6年度第2回学校運営協議会議事録

開催日：令和6年10月14日 於：応接室

出席者

学校運営協議会委員：出光委員、渡邊委員、矢田委員、松崎委員、佐藤委員

本校職員：栗原校長、長瀬副校長、笠原教頭、黒滝総括、石井、鳶寄

本校職員：本日3校時の授業を見ていただいたが、授業見ていただいた際の生徒の様子や、あるいは授業の進め方、教育環境なども含めて広くご意見をいただければと思う。

委員：とりあえずひと通り拝見した。一番はじめに韓国語の教室を見て、やはり韓国語は人気があると感じた。履修している生徒は、女の子が圧倒的に多かった感じであった。

印象的だったのが、韓国語の隣の部屋で行われていたロジカルスピーキング入門である。旅行先で知り合ったオーストラリア人へのインタビュー動画を映していて、教材の選択としては素晴らしいなと思った。生徒達には現地の方の会話が聞き取れるのかなとは思ったが、今後どこかの授業で外国人とzoomで繋げてあげようかという話をしたら、生徒のテンションが上がっていて、今風のすごい授業だなと思った。

もう一つ印象に残っている授業は数学Ⅲである。失礼だが、この学校で数学Ⅲまで履修するということは理系進学を考えていて、それなりに数学も好きなのだろうと思う。20名程度ではあったが小気味良く授業が展開されていた。数学Ⅲを履修している生徒の中には横浜市立大学に手が届く生徒もいるのではないかと考えている。ただそのためには高校2年生の1月に数学オリンピックを受けていただくのが条件ではあるが。

レベルが高い授業もあったので、ある程度目的が揃っている生徒がまとまっていると、教えている先生も楽しいのだろうなという感じがした。

最後に昨年から気付いて見に行くのが、2階の進路指導室のところにある指定校の掲示である。来校した中学生が食い入るように見ていたが、あれはとても重要な掲示と思った。その中でも印象的だったのが、フェリス大の指定校推薦枠定員に対する志願者数が少なかったことだ。全体的に女子大の人気は下がってきてはいるが、今年、フェリス大がグローバル教育学部に改組して、大学自体が良くなっている感はある。

藤沢にある、日本大学の生物資源科学部の中に文系の学科があるが、そこも目ざとく見つけて定員が埋まっているところは素晴らしいと思った。

委員：私は初めて参加させていただいたので、ピントがずれていたら申し訳ない。今日は4階から5階まで回ったところで時間が尽きてしまい、残念ながら2階は見られなかったのだが、電子黒板が各教室に入っていることが印象に残った。

電子黒板の利用については、すごく効果的に活用されている授業がある反面、コミュニケーションがあまりない教室があったので、コミュニケーションに乏しい教室は、教員からの一方通行になってしまっていて、生徒に教員の想いが届いているのかという点が気になった。

また別の教室ではすごく賑やかで、生徒も一見聞いてない風だが、生徒と教員とのやり取りの中で授業が進んでいったところもあり、すごく興味深く見せていただいた。自分が教壇に立っている時とは授業の方法も使用する機器も様々に異なってきているのだなと改めて思った。

何年か前に副校長で並木第1小学校に赴任していた時に、金総の卒業式に出席させていただき、雰囲気がとても暖かく生徒も可愛いという印象があった。その伝統は教員と生徒とがすごく良い関係を作っているところから受け継がれているのかなと思った。

私は音楽が専門なので、音楽の授業も見せていただき、合唱の声がとても綺麗でびっくりした。生徒は数人しかいなかったが、しっかり声を出していて、すごく良い印象を持った。

本校職員：電子黒板は先月導入された。これは神奈川県全高校の普通教室全てに導入される予定のものである。たまたま本校が初年度に当たった。導入されたのは良いものの、このような機器にあまり詳しくない使い方を理解していない教員も多い。電子黒板の使用方法についての研修も予定しているが、まだ完全に実施できていない。

導入された電子黒板の機種は県教育委員会が決めたものなので、学校から希望したものではない。教室内を見ていただいた際、教室の前の方を開けていたり、扇形みたいになっていたり、妙な座り方をする教室があったと思う。それは通常の座り方だと電子黒板が見えないからで、クラス全員に電子黒板を見せるための苦肉の策でそのような座り方をしているということである。

委員：小学校も学校に電子黒板が1台は納入されたのだが、なかなか1台だと運用が難しく、結局隅の方に置かれてしまっていたりする。今後多数台が納入された場合には効果的に使えると良いと思う。

委員：私は1年生に息子が在籍しているので、どちらかという授業参観がメインのような感じで1年生のクラスを拝見した。教室の様子はみんな静かに授業を受けていた印象である。

まだ入学してから半年程度なので静かな状態なのかなと思ったりもする。また、教室の後ろの方で段ボールが沢山置いてあり、いかにももうすぐ文化祭という薫りがしていたので文化祭が楽しみだと思った。4階423教室も見学したのだが、今日は特に暑いのに冷房が入ってなくて窓も閉め切りだった。私は暑いと感じたが、子供達の中にはセーターを着ている者もいた。若い子は暑く感じないのかなと。

委員：確かに1年生の教室内がムツとしているところはあった。窓や扉が開いていて、

風が抜けている教室もあったが。

委員：電子黒板が先月導入されると今聞いて、拝見した教室内の状況に合点がいった次第である。すでに電子黒板を使いこなしていそうな教員も当然おられるようだが、おそらく使いこなすのに時間が掛かる教員もいらっしゃるのだろうと思う。それは中学校も同じである。ただ、教員の中には電子黒板だけを使用した授業を行い、黒板を全く使っていない方も結構いて、板書がどのような場面で必要なのかを考えさせられる。

小学校では必ず板書は丁寧に、今日のねらいや目当て、授業の流れなどを児童や生徒に提示してから授業を行うように指導している。それらのことを書いたカードを作り、必ず黒板に貼って授業をして欲しいと要望したところ、教員達も結構真面目にやってくれている。

そんなことを思い出しながら、子供達の発達段階の違いを感じた。小中学校は今の授業は何を学ぶ場なのかを理解させることを丁寧にやっていかなければならないが、高校になると自分で学習をどんどん進めていくという点が違うのだと改めて感じた。

また、おそらく電子黒板があるからであろうが、大方の教室のカーテンが閉まっていた。中学校でもテレビを授業で使うことはあるが、電子黒板を使用する際にカーテンを閉める必要はあるのだろうか。

本校職員：そこは痛しかゆしで、電子黒板導入前は、黒板にスクリーンを貼ってプロジェクターを使って映写していて、その時はおそらくカーテンを閉めないと見えづかったのだと思う。電子黒板は輝度が高いので、カーテンを閉めずとも生徒には見えるのではないかと思う。遮光カーテンは、プロジェクターを使う際に生徒がスクリーンを見づらいたろうということで導入した経緯がある。

委員：1年次生と3年次生の授業の雰囲気はやはり何か違う。1年次生はクラス当たり

の人数が多く、2年次生3年次生は選択授業なのだろうが、多いところでも20人程度で授業が実施されていて、あれだけの少人数で授業ができるのはやはり良いことだなと改めて思った。

また、生徒を見ていて化粧をしている生徒が多いのが気になった。ただ、高校になると自分で学習をしっかりやりたいという子は集中して取り組んでいるだろうから、化粧などの生活指導面も重要だが、やはり自ら進んで学習していかなければならない世代なのだろうと改めて思った。

教員は本当に個性的で様々なタイプの方がいるなと思った。とても元気よく話をする方もいたし、なかなか聞き取りにくい方もいた。

全体の雰囲気としては、生徒がこんな風になりたいという自由な雰囲気は伝わってきて、その辺が金総の特徴なのだろうと思う。

委員：私も様々に拝見したが、印象に残った1つはデータ処理の授業である。Excelで、関数について結構実践的なことを扱っているな、結構レベルが高いなと感じた。

私は元々企業の教育・研修を行っていたので、このくらい実践的なものを高校生時分から経験すれば、卒業後も即戦力として働けるようなPCスキルを修得できると思う。

例えば人材派遣業に人材登録をする際に、ExcelやWordのデータを修正するようなテストが必ず行われる。今回見た授業でもそれに近い形のものがあり、授業形式も、ある程度既存のデータがあり、それを修正してください、みたいな形の演習だったので、割と実践的なところをやられているなと思った。

コミュニケーション技術の授業も拝見した。生徒は全員女子だったが、この教科も金総の生徒の興味のあるところなのかなと思った。担当の教員に聞いたのだが、基本的に座学よりも実習中心だそうで、この教科も社会に出た際に活かせるような実践的なスキルが身に付けられるのではないかと思った。

若干気になった点としては、私は今年からリハビリの学校で仕事をしているのだが、

医療職でも国語が非常に重要視されてきている。そこで国語の授業を色々と拝見したが、基本的に板書が中心で、生徒は黙ってノートを取って、発言があまりないというような授業が散見された。私も国語が専門ではないので、どういう授業が良いのかというところはわからないが、もうちょっと発言や議論が活発にあってもいいのかなと思うところがあった。

医療職では、技術書などの書籍や文献を読みこむなど、かなりの情報量を頭に入れる必要があるので、国語は非常に重要だと思う。国語の授業の仕方が、私が昔受けていた頃と今の時代では変わったのかなというの、気になったところである。

また、就職関連の掲示物も拝見したが、就職を前提として将来どのような学校に行つてどのような資格を取ったら良いのかというところを、生徒がちゃんと整理できているのかなという点が疑問である。掲示物にはしづらいかもしれないが、業界の課題であったり、初任給などの待遇であったり、ポジティブな情報だけでなく、労働環境や待遇など生の情報も掲出するようにし、社会の実態を勉強しておくことも必要と感じた。

委員：おそらくだがそれについては産業社会と人間の授業で扱えると思う。

本校職員：確かにそういう掲示物があってもいい。産業社会と人間という科目は、総合学科での必修科目なのだが、世の中にはどのような職業があり、自分が将来どのような分野に進んでいくのかについても扱っている。近々、1年次生の授業で『働く人にインタビュー』というものがあり、現状はインタビューに何う前段階の調べ学習やりハーサルを行っているところであろうと思う。

おそらくインタビュー本番の時には、もうちょっと突っ込んだことを実際に働いている方に聞けると思う。その後また振り返りの授業も行う予定である。

頂戴したご意見は1年次生の産業社会と人間の担当教員に共有したい。現状の1年次生の進行状況はどうなっているのか。

本校職員：インタビュー自体は11月に予定されており、先週は教員を相手としてインタビューをするという本番への対策授業を行った。その際班ごとに質問係とか記録係とかを決めながら練習をして準備を進めている最中である。

本校職員：今までお話を伺っていると、電子黒板について様々にご意見を頂戴したと思うのだが、実際に電子黒板は9月末に導入されてまだ2週間である。実際に電子黒板を使いながら授業をされている立場から、どのような感じで使っているのか紹介して欲しい。

本校職員：私は全然使いこなせていない方である。なので、今までのプロジェクターの延長・代わりとして、画像や動画を映し出すために使っているところでとどまっている。先程カーテンの話が出たが、実際のところ設置場所がおそらく教室によって割とばらつきがあるのではないかと感じている。

自分の担任教室も最初は廊下側に電子黒板を設置していたが、そうすると1番前の席の子が画面が反射して見えないと言ってきた。そのため、今は窓側の方に移動させて教室全体で見られるようにしているが、カーテンを開けた状態で使用してはいないので、カーテンを開けた状態でどれくらい見えるのかというのは今後試してみたいと思う。

本校職員：電子黒板の輝度はかなり高いので、多分カーテンを閉めなくても充分に見えると思う。別の授業でカーテンを全部開けて使っているところを見たが全く違和感がなかった。画面の反射も窓側に置けば問題ないのではないか。廊下側に設置してしまうと確かに反射して見づらくなってしまいかも知れない。

委員：金総にはデジタル教科書のようなものは導入されているのか。

本校職員：デジタル教科書自体はあることあるが、本校では使用していない。

委員：生徒1人1台端末はいつぐらいに揃うのか。

本校職員：本校では全学年揃っている。ただ、揃ってはいるが、使い勝手がイマイチというところもある。充電が切れていて使えない状態の子も結構多い。本当は家に持ち帰って充電しなければならないのだが、正直、多くの子はおそらくロッカーに入れっぱなしの状態である。そうすると、授業で使おうとした時に一部の生徒では充電がされておらず端末を使えないという状況が発生してしまう。校内に生徒が充電に使える充電ステーションのようなものがない。

委員：小中学校は充電できる保管庫のようなものがある。今日見る限り確かに充電ステーションは見当たらなかった。

本校職員：そこが問題である。生徒の意識が低いというか、子供達は充電を忘れてくることが多い。授業に参加する生徒全員が使用可能な状態の端末を持っておらず、結局生徒のスマートフォンを使って授業を実施するということになってしまっている。授業によっては、次回の授業では端末を使うから必ず充電された端末を持ってくるように指導して、今回の授業はとりあえずスマートフォンを使わせている教員もいる。

やはりバッテリーの充電についてはかなり大きな問題である。端末もそれなりの重さがあるので、毎日持ち帰る生徒は非常に少ない印象である。

端末だけ用意させて充電できないという状況は本来現実的ではない。学校によっては充電できる保管庫のようなものを置いている学校もあると聞く。しかしながらそのような保管庫があっても、一度に充電や保管ができる端末の台数は限られてしまうので、そ

それはそれでまた面倒なことになっているという話を聞いたことがある。

委員：端末を家まで持ち帰る生徒はどれくらいいるのか。

本校職員：持ち帰る子は非常に少なく、ロッカーに入れている生徒が多い。ロッカー内では当然充電はされない。

委員：小中学校では普段は学校に置いていて、必要な場合は家に持ち帰っても良いということにはなっている。また常に充電可能な保管庫を用意しているので、端末の充電はほぼ常にされている状態である。

委員：金総では充電器は各家々に置いてあるということか。

本校職員：充電器ではなく、購入時に充電用のケーブルが付属していて、そのケーブルと端末とをコンセントに接続することで充電できるようになっている。

委員：息子のカバンには、端末はおろか弁当しか入っているのを見たことがない。

本校職員：端末の保管について話があったが、端末を充電・保管できるラック自体はある。ただ、それは生徒が自分の端末を充電するためのものではない。

また、充電保管ラックを何台どこに置くのかということを考えると、全校生徒で 820 名くらい在籍しているので置き場所の確保が難しい。

委員：原則ホームルーム教室に設置するというにすればよいのではないか。

本校職員：そこも難しい点で、2、3年次生はホームルーム教室で授業を受けることが
ほぼない。毎授業ごとに教室を移動しなければならず、そうすると端末も常に持って
いかなければならない。生徒はそれも面倒くさがる。

委員：そういう状況であれば、生徒のロッカーで充電できるようにするのが一番子供達
的には良い環境ということか。

本校職員：今の生徒はモバイル用充電器を持っている者も多いと思うので、それを使わ
せて充電させるという手もあるとは思う。

委員：校長とは先程話したのだが、手で書くことによって覚える、記憶・理解するもの
もあるから、端末に頼りきりになるのもどうかと思う。せっかく購入した端末なので使
った方が良いでしょうが、手書きと端末使用とのバランスが難しく感じる。

本校職員：国語の授業などで、先ほどお話があった昔ながらの授業というのも、良い面
悪い面双方があると思う。板書を書き写すなど手を動かすことが必要だと思ってやっ
ているかも知れないし、実は授業改善ができてないのかも知れない。そこまでは把握でき
ていない。

委員：端末は、教科書が完全に電子化すれば、生徒も持ち歩くインセンティブがあるだ
ろう。なので、現状のような中途半端な状態だとなかなか難しいと感じる。プレゼンテ
ーションで使えば便利だ、くらいだとどのような使い方をすべきかの判断は難しい
と思う。これから5年、10年経った時には、おそらくどんどん環境が変わっていくとは
思うが。

委員：端末や電子黒板に頼りきりではなく、従来のような授業とどのようにバランスよく授業を行っていくというところを考えていかなければならないのかなと思う。

校長：本日は短い時間ではあったが、貴重なご意見を頂戴し感謝申し上げます。今後も学校運営にご協力を賜れると幸いである。